

# 中小企業景況調査報告書 (福井県商工会地域)

令和4年4月～6月実績

令和4年7月～9月見通し

福井県商工会連合会



## I. 景況調査の概要

1. 調査目的 この調査は、経営指導員による訪問面接調査により福井県商工会地域中小企業の経済動向について一定時期ごとに迅速・的確に収集、提供して、経営改善普及事業を効果的に実施するものです。
2. 調査方法 経営指導員による訪問面接調査
3. 対象地区 あわら市、坂井市、永平寺町、福井東、福井北、福井西、越前町、越前市（池田町）、南越前町、わかさ東、おおい町（高浜町）の計11商工会
4. 対象企業数 165企業（1商工会15企業）
5. 回答企業数 165企業（回答率100%）
6. 調査対象期間 令和4年4～6月期実績及び令和4年7～9月期見通し
7. 調査時点 令和4年6月1日（水）
8. 回答企業内訳

	調査対象企業数		有効回答企業数		有効回答率 (%)
製造業	38	23.0%	38	23.0%	100.0%
建設業	24	14.5%	24	14.5%	100.0%
小売業	51	30.9%	51	30.9%	100.0%
サービス業	52	31.5%	52	31.5%	100.0%
合計	165	100.0%	165	100.0%	100.0%

### 9. DI値（ディフュージョン・インデックス、景気動向指数）

企業の景気動向を示す指標です。各調査項目について〈増加・上昇・好転〉の割合からDI値がプラスなら強気（楽観）、マイナスなら弱気（悲観）となります。

$$DI（数式） = （上昇企業数 - 低下企業数） \div 回答企業数 \times 100$$

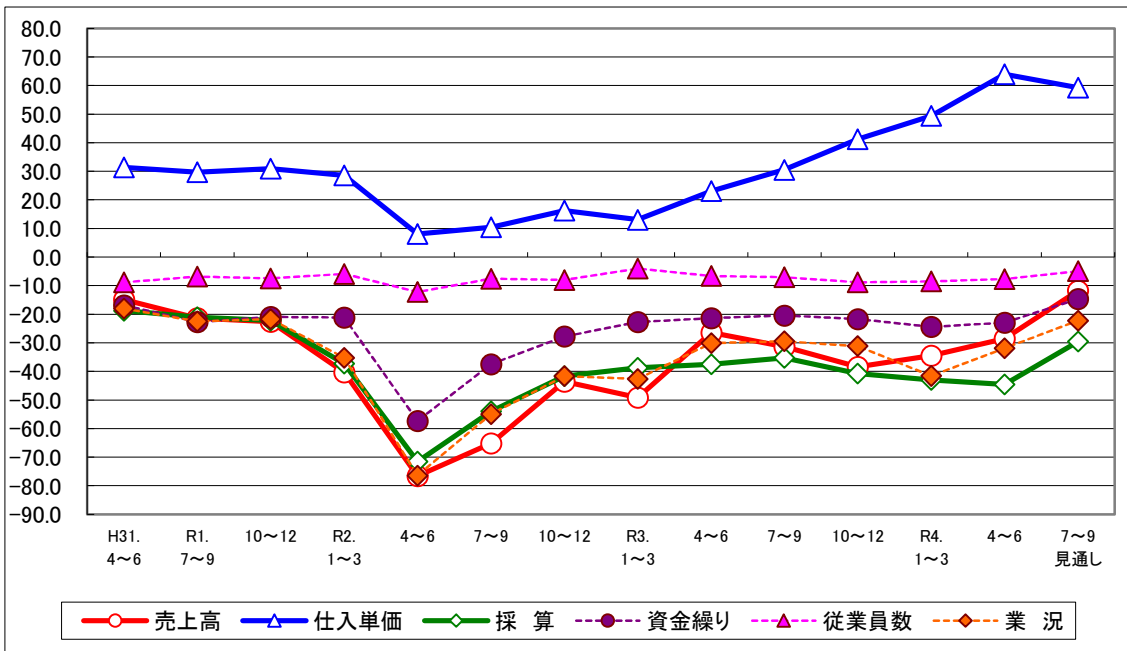
### 10. 分析執筆者 福井県立大学 地域経済研究所長 所長 南保 勝 氏

## 全体(福井県商工会地域中小企業)の景況

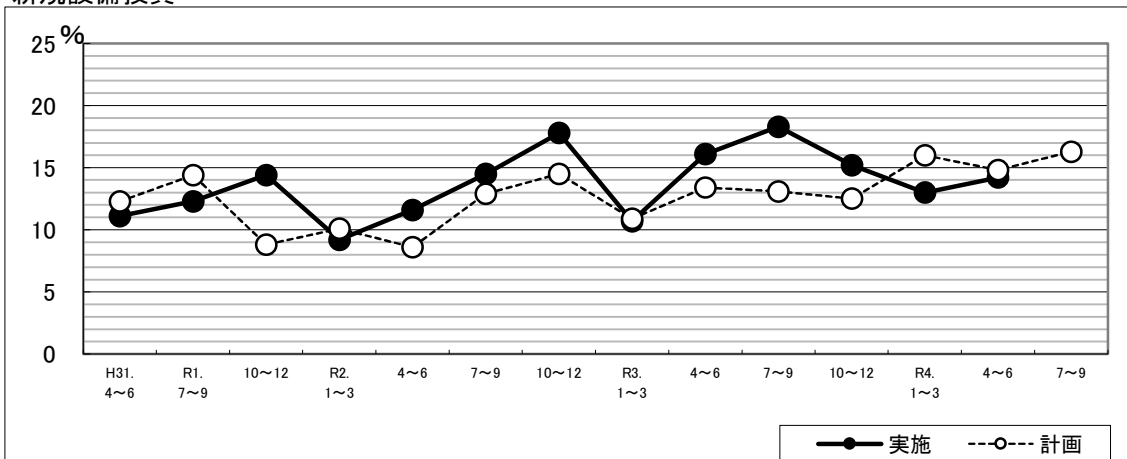
### 景気動向推移(前年同期比:DI値)

期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
H31.4~6	▲ 14.8	31.4	▲ 18.7	▲ 16.8	▲ 8.8	▲ 18.0
R1.7~9	▲ 21.3	29.7	▲ 21.0	▲ 22.7	▲ 6.8	▲ 22.5
10~12	▲ 22.6	31.0	▲ 22.2	▲ 20.9	▲ 7.4	▲ 21.6
R2.1~3	▲ 40.3	28.6	▲ 37.2	▲ 21.1	▲ 5.9	▲ 35.2
4~6	▲ 76.6	8.1	▲ 71.5	▲ 57.3	▲ 12.2	▲ 76.4
7~9	▲ 65.1	10.5	▲ 54.0	▲ 37.4	▲ 7.5	▲ 54.9
10~12	▲ 43.5	16.2	▲ 41.7	▲ 27.8	▲ 8.0	▲ 41.7
R3.1~3	▲ 49.1	13.1	▲ 38.7	▲ 22.7	▲ 4.0	▲ 42.6
4~6	▲ 26.4	23.1	▲ 37.4	▲ 21.3	▲ 6.6	▲ 30.1
7~9	▲ 31.3	30.6	▲ 35.2	▲ 20.4	▲ 7.0	▲ 29.4
10~12	▲ 38.4	41.3	▲ 40.7	▲ 21.7	▲ 8.8	▲ 31.1
R4.1~3	▲ 34.5	49.4	▲ 42.9	▲ 24.4	▲ 8.5	▲ 41.5
4~6	▲ 28.5	64.0	▲ 44.5	▲ 22.9	▲ 7.7	▲ 31.9
7~9見通し	▲ 11.7	59.3	▲ 29.6	▲ 14.6	▲ 4.9	▲ 22.2

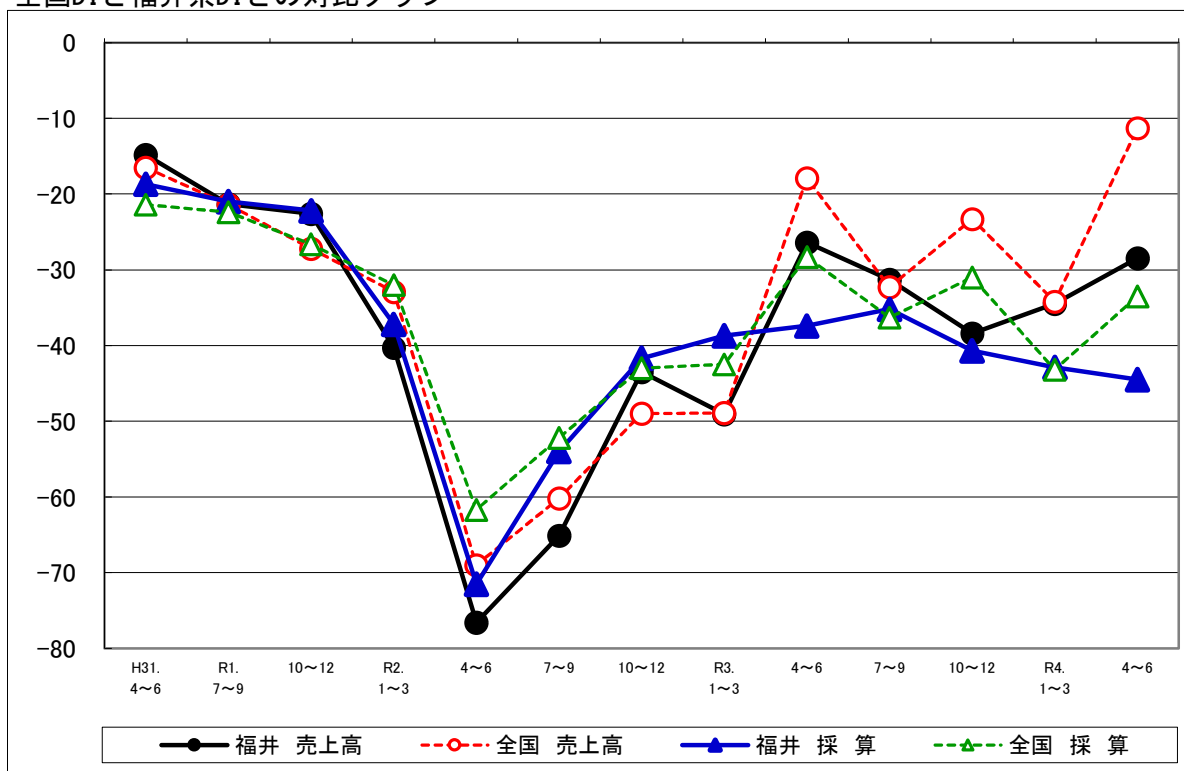
※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。



### 新規設備投資



全国DIと福井県DIとの対比グラフ



全体の景況

R4年4-6月期の福井県経済を概観すると、需要面ではいまだ新型コロナウイルス感染症の影響がみられるものの、ドラッグストア販売が順調、百貨店・スーパー販売が持ち直しつつあるほか、温泉地や観光地、飲食サービスで持ち直しの動きがみられるなど、総じて堅調に推移している。供給面でも生産用機械が拡大しつつあるほか、電子部品・デバイスが持ち直しつつあることなどから、全体では緩やかに回復しつつある。ただ、先行きについては、引き続きコロナ蔓延による影響やウクライナ情勢等による世界的な不透明感の増幅の中、原材料価格の上昇、金融市場の変動、供給制約等による下振れリスクに注意する必要がある。

こうした状況下、今期（R4年4-6月期）の景況調査をみると、全体では景況感を示すDI値6項目中4項目で改善傾向を示しており、県内企業の景況感は持ち直しつつあることがうかがえる。項目ごとのDI値をみると、売上高が前期▲34.5→今期▲28.5へ、資金繰りが前期▲24.4→今期▲22.9へ、従業員数が前期▲8.5→今期▲7.7へ、業況が前期▲41.5→今期▲31.9へと改善。仕入単価（逆指数）については、49.4→64.0へ、採算が前期▲42.9→今期▲44.5へと悪化している。先行き（R4年7-9月期）については、6項目全てが改善予測となっており、持ち直しへの動きがさらに強まることが予想される。

一方、売上高と採算のDI値を全国と比較すると、全国が前期比で売上高、採算ともに改善する中、福井県企業では売上高が改善したものの、採算は悪化しており、全国に比べ景況に対する改善傾向がやや弱い動きであることがうかがえる。

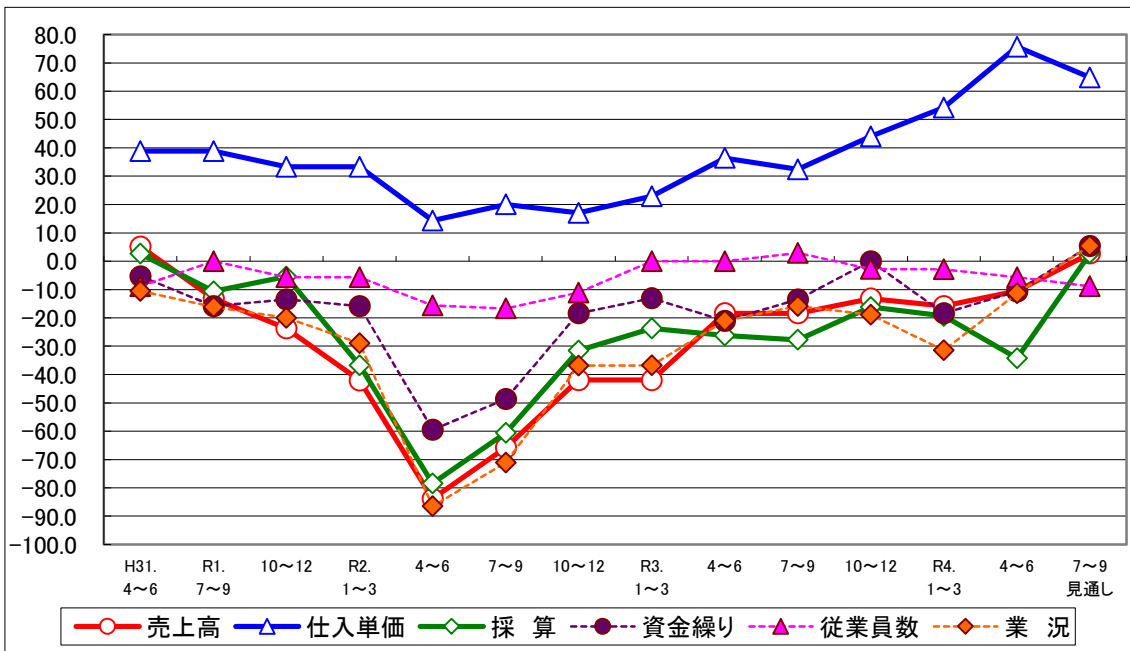
そのほか、今期の新規設備投資については、設備投資を計画した企業14.8%に対し実施した企業14.2%と微減したものの、先行き（R4年7-9月期）については、何らかの投資計画を持つ企業が16.3%と投資意欲は今期よりやや上向くことが期待される。

## 製造業(福井県商工会地域中小企業)の景況

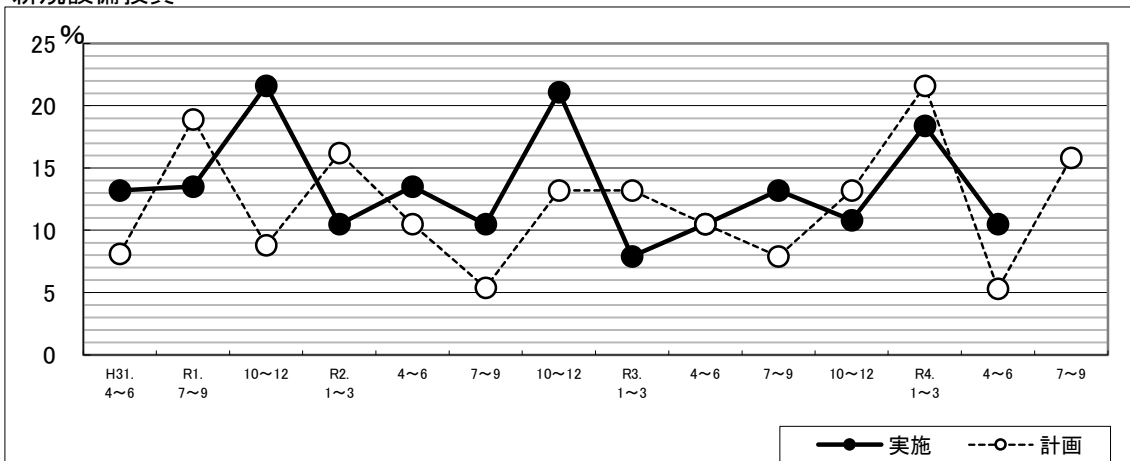
### 景気動向(前年同期比:DI値)

期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
H31.4~6	5.2	38.9	2.6	▲ 5.3	▲ 8.8	▲ 10.5
R1.7~9	▲ 13.2	38.9	▲ 10.6	▲ 15.8	0.0	▲ 16.2
10~12	▲ 23.7	33.3	▲ 5.4	▲ 13.5	▲ 5.6	▲ 20.0
R2.1~3	▲ 42.1	33.3	▲ 36.8	▲ 15.8	▲ 5.6	▲ 28.9
4~6	▲ 83.8	14.3	▲ 78.4	▲ 59.5	▲ 15.6	▲ 86.5
7~9	▲ 65.8	20.0	▲ 60.6	▲ 48.7	▲ 16.7	▲ 71.1
10~12	▲ 42.0	17.1	▲ 31.6	▲ 18.4	▲ 11.1	▲ 36.9
R3.1~3	▲ 42.0	22.9	▲ 23.7	▲ 13.1	0.0	▲ 36.8
4~6	▲ 18.4	36.4	▲ 26.3	▲ 21.1	0.0	▲ 21.1
7~9	▲ 18.4	32.4	▲ 27.7	▲ 13.5	2.9	▲ 15.8
10~12	▲ 13.2	44.1	▲ 16.2	0.0	▲ 2.8	▲ 18.9
R4.1~3	▲ 15.8	54.3	▲ 19.4	▲ 18.4	▲ 2.9	▲ 31.5
4~6	▲ 10.5	75.7	▲ 34.2	▲ 10.6	▲ 5.7	▲ 11.4
7~9見通し	2.7	64.9	2.7	5.4	▲ 8.8	5.4

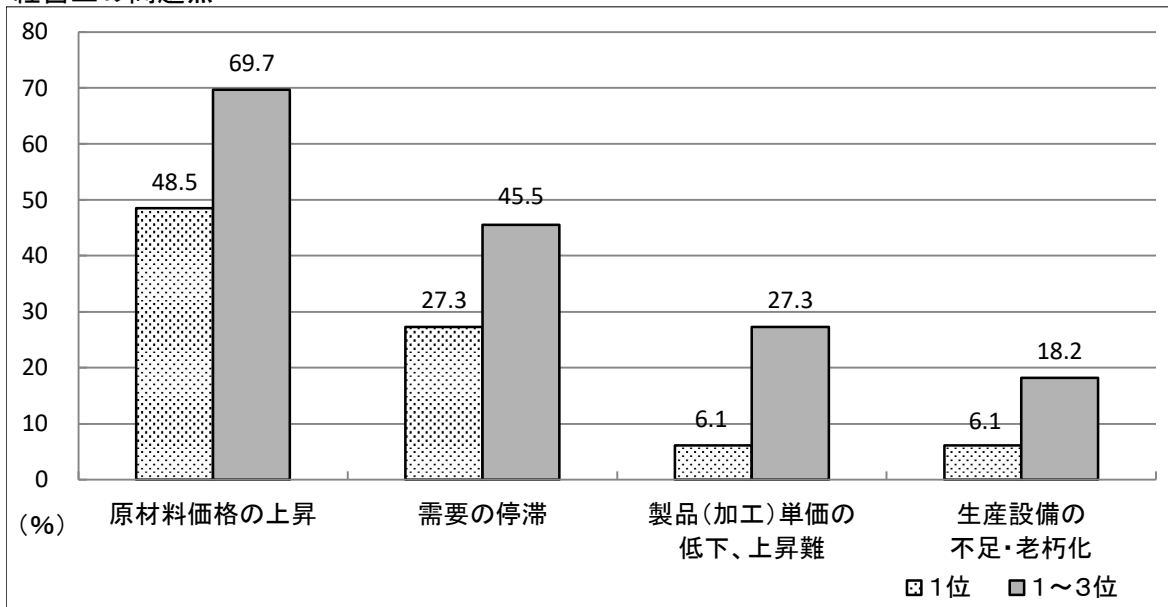
※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。



### 新規設備投資



## 経営上の問題点



## 調査企業の声

- ・原材料高騰の為、商品価格を5月より約10%値上げ。Withコロナ政策によってGW等はコロナ前の80%まで回復し今後の観光シーズンに向けて期待高まる。
- ・コロナは少し落ち着き、売上も昨年よりあがったが、コロナ前の景気程ではない。
- ・材料、バターや包装関係の品が高くなり、利益が上がらなくなっている。又イベント等も減り売上が少なくなっている。

## 製造業の景況

最近の県内製造業を概観すると、繊維工業が衣料、非衣料ともに足踏みの状況にあるほか、化学工業も合成樹脂等の化学製品を中心に足踏みの状態にある。しかし、主力の電子部品・デバイスで、スマートフォン向けを中心に持ち直しつつあるほか、生産用機械も金属加工機械で持ち直している。また、非鉄金属（アルミ圧延製品）が飲料向けを中心に、眼鏡枠・部品も持ち直しつつあることから、全体でも持ち直している。

こうした中、今期（R4年4～6月期）の景況調査をみると、全体では景況感を示すDI値6項目中3項目が改善傾向、残り3項目で悪化傾向となった。引き続き、新型コロナウイルス感染症の拡大やウクライナ侵攻の長期化による世界経済への不安感、原材料価格の上昇、供給制約等の問題が福井県企業に大きな影響を与えていることが懸念される。

各項目のDI値をみると、売上高が前期▲15.8→今期▲10.5へ、資金繰りが前期▲18.4→今期▲10.6へ、業況が前期▲31.5→今期▲11.4へと改善。一方、仕入単価（逆指数）が前期54.3→今期75.7へ、採算が前期▲19.4→今期▲34.2へ、従業員数が前期▲2.9→今期▲5.7へと悪化した。県内製造業では、仕入単価の上昇により資金繰りが悪化し、採算も厳しい状況にあることがうかがえる。先行き（R4年7～9月期）については、6項目中、従業員数を除く5項目で改善予測となっている。

一方、新規設備投資の状況については、計画の5.3%に対し実施が10.5%となるなど、まずまずの投資状況となった。また、先行き（R4年7～9月期）についても、何らかの投資を予定する企業が15.8%となっており、やや期待感が膨れる状況となっている。

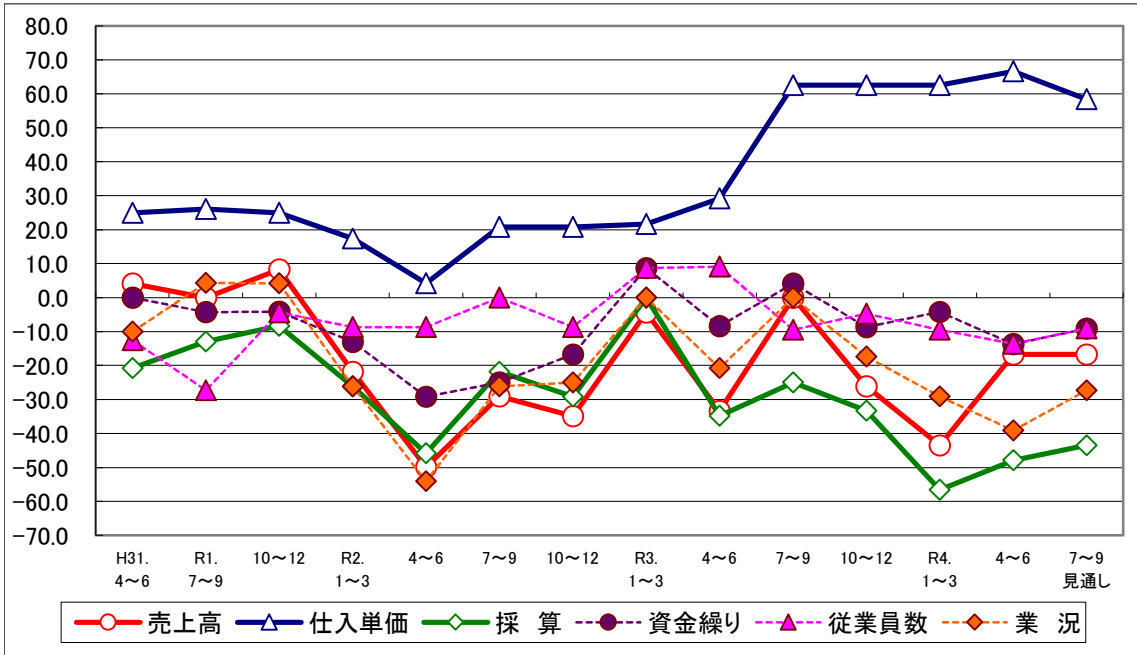
最後に、経営上の問題点については、1位に挙げた企業ウエイトが「原材料価格の上昇」で最も多く48.5%（1位～3位までに挙げた企業69.7%）を占めた。個別の見解としては、「材料、バターや包装関係の品が高くなり、利益が上がらなくなっている」など原材料価格高騰に関する声が目立ったものの、「コロナ前には戻っていないが、売上が昨年よりあがった」など、明るい声も聞かれた。

## 建設業(福井県商工会地域中小企業)の景況

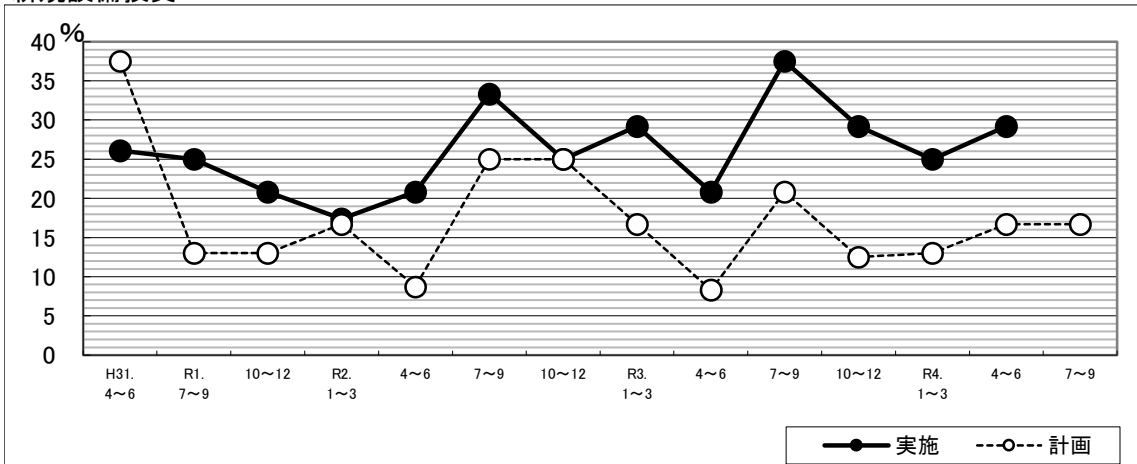
### 景気動向(前年同期比:DI値)

期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
H31.4~6	4.1	25.0	▲ 20.8	0.0	▲ 12.5	▲ 10.0
R1.7~9	0.0	26.1	▲ 13.0	▲ 4.3	▲ 27.3	4.3
10~12	8.3	25.0	▲ 8.3	▲ 4.1	▲ 4.4	4.2
R2.1~3	▲ 21.8	17.4	▲ 26.1	▲ 13.1	▲ 8.7	▲ 26.1
4~6	▲ 49.9	4.2	▲ 45.8	▲ 29.2	▲ 8.7	▲ 54.1
7~9	▲ 29.1	20.8	▲ 21.8	▲ 25.0	0.0	▲ 26.1
10~12	▲ 34.9	20.8	▲ 29.2	▲ 16.7	▲ 8.7	▲ 25.0
R3.1~3	▲ 4.4	21.7	0.0	8.7	8.7	0.0
4~6	▲ 33.4	29.2	▲ 34.8	▲ 8.4	9.1	▲ 20.8
7~9	0.0	62.5	▲ 25.0	4.1	▲ 9.5	0.0
10~12	▲ 26.1	62.5	▲ 33.3	▲ 8.7	▲ 4.7	▲ 17.4
R4.1~3	▲ 43.5	62.5	▲ 56.6	▲ 4.2	▲ 9.5	▲ 29.1
4~6	▲ 16.7	66.6	▲ 47.9	▲ 13.7	▲ 13.6	▲ 39.1
7~9見通し	▲ 16.7	58.4	▲ 43.5	▲ 9.1	▲ 9.1	▲ 27.3

※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。

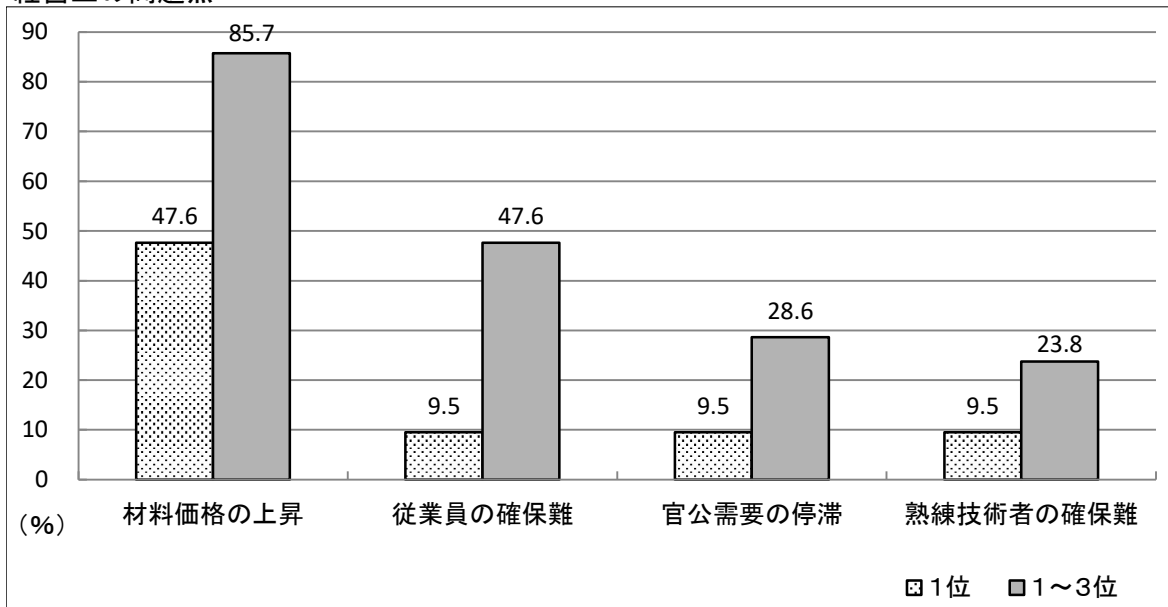


### 新規設備投資





## 経営上の問題点



## 調査企業の声

- ・仕入れの材料、外注費、何もかもが高くなっている。これから材料の価格がどこまで上がっていくのか、それに伴って工事は増えていくのかと考えてしまう。
- ・通常の入札物件が少なく災害復旧工事の単価が低いためこの先の採算が悪くなる見込み。
- ・官庁の大型案件が全体で好況のため、人材資材共、動きは活発。原発関連は業者間の浮沈の差が大きい。それらを見越して拠点の整備やM&Aの動きが激しくなっており、大手との受注競争が増えている。

## 建設業の景況

福井県内におけるR4年度（R4年4～R4年6月期）の公共工事発注状況（資料：東日本建設業保証株式会社）をみると、請負金額は累計で597億3百万円の前年同期比28.2%の減少、発注件数は同1,044件の同6.6%の増加となっている。これを主な発注者別でみると、福井県関連工事が180億19百万円の前年同期比38.5%増となったものの、独立行政法人等関連工事が171億28百万円の同59.6%減となるなど、前期比割れが目立っている。一方、住宅投資については、R3年4～R4年5月の累計で、前年同期比4.0%減の717戸であった。利用関係別では、主力の持家が前年同期比0.7%減の433戸、貸家が同2.9%減の199戸となっている。住宅業界では、引き続き木材価格の高騰とともに住宅部材の品薄傾向が続いており、今後の住宅投資の下振れが懸念される。

こうした中、今回の景況調査をみると、景況感を示すDI値6項目のうち売上高と採算の2項目で改善。残り4項目は悪化となった。各項目別のDI値をみると、売上高が前期▲43.5→今期▲16.7、仕入単価（逆指数）が前期62.5→今期66.6、採算が前期▲56.6→今期▲47.9、資金繰りが前期▲4.2→今期▲13.7、従業員数が前期▲9.5→今期▲13.6、業況が前期▲29.1→今期▲39.1となっている。また、先行き（R4年7～9月期）については、改善予測が5項目となり、厳しいながら多少の持ち直しが期待できる。

一方、今期の新規設備投資については、計画した企業16.7%に対し実施した企業が29.2%となり、実施が計画を大幅に上回っている。また、先行き（R4年7～9月期）については、何らかの投資計画を持つ企業が今期同様の16.7%となり、まずまずの投資状況が期待される。

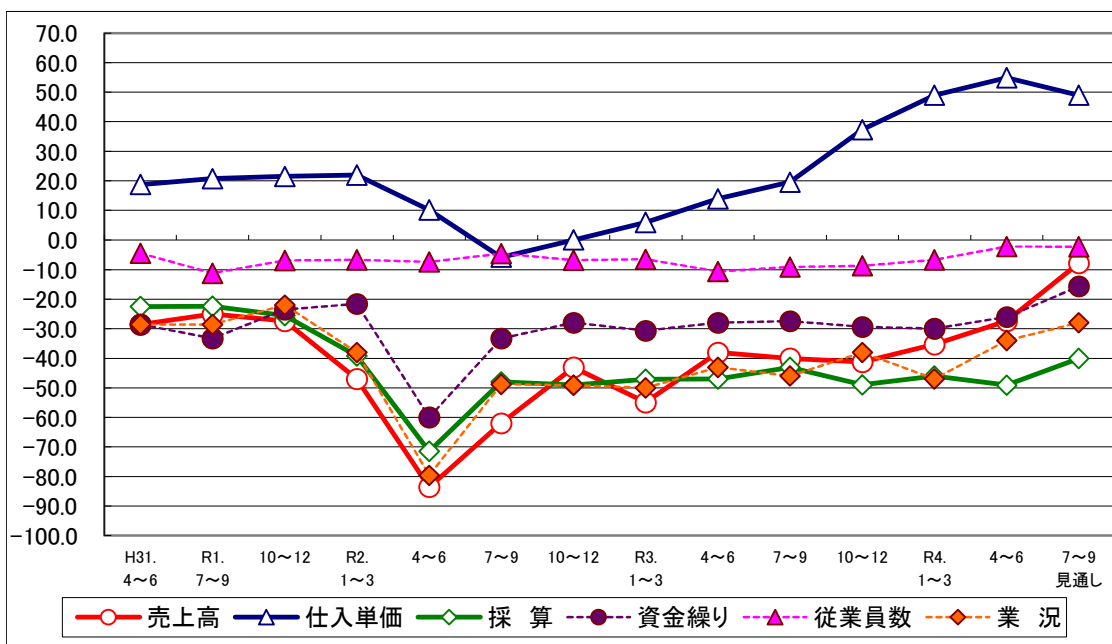
最後に、経営上の問題点については、1位に挙げた企業ウエイトが「材料価格の上昇」で最も多く47.6%（1位～3位に挙げた企業85.7%）を占めた。次いで、「従業員の確保難」（1位に挙げた企業9.5%、1位～3位に挙げた企業47.6%）が続いている。その他の見解としては、「材料費、外注費、何もかもが高くなっている」、「通常の入札物件が少なく災害復旧工事の単価が低いためこの先の採算が悪くなる」「原発関連は業者間の浮沈の差が大きい。大手との受注競争が増えている」など、悲観的な声が多く聞かれた。

## 小売業(福井県商工会地域中小企業)の景況

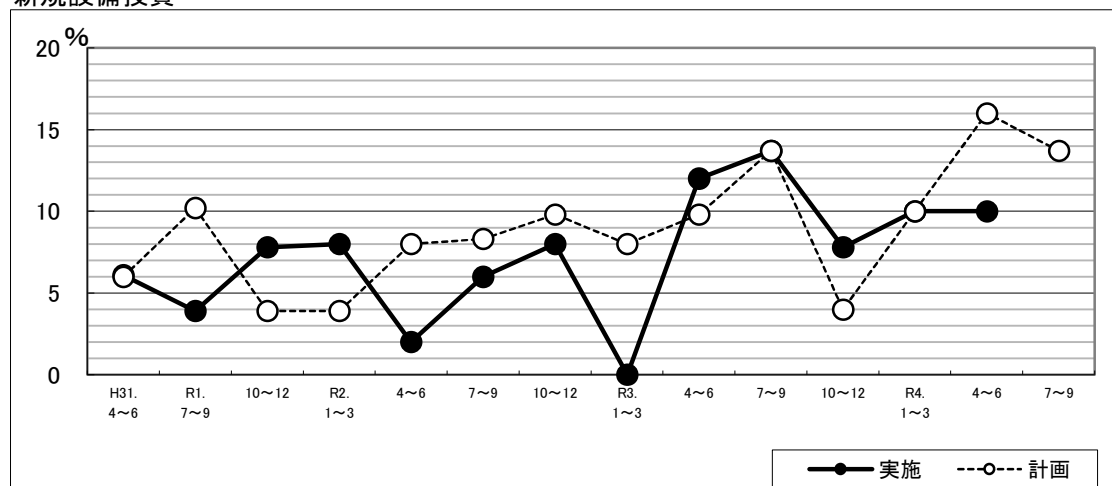
### 景気動向(前年同期比:DI値)

期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
H31.4~6	▲ 28.6	18.8	▲ 22.5	▲ 28.6	▲ 4.5	▲ 28.6
R1.7~9	▲ 25.0	20.8	▲ 22.4	▲ 33.3	▲ 11.2	▲ 28.6
10~12	▲ 27.4	21.5	▲ 25.5	▲ 23.5	▲ 6.9	▲ 22.0
R2.1~3	▲ 47.0	22.0	▲ 39.2	▲ 21.6	▲ 6.7	▲ 38.0
4~6	▲ 83.6	10.2	▲ 71.5	▲ 60.0	▲ 7.4	▲ 79.6
7~9	▲ 62.0	▲ 5.8	▲ 48.0	▲ 33.3	▲ 4.6	▲ 48.8
10~12	▲ 43.1	0.0	▲ 49.1	▲ 28.0	▲ 6.8	▲ 49.1
R3.1~3	▲ 55.0	6.0	▲ 47.1	▲ 30.7	▲ 6.5	▲ 50.0
4~6	▲ 38.0	14.0	▲ 47.0	▲ 28.0	▲ 10.6	▲ 43.1
7~9	▲ 40.0	19.6	▲ 43.1	▲ 27.4	▲ 9.1	▲ 46.0
10~12	▲ 41.2	37.3	▲ 49.0	▲ 29.4	▲ 8.7	▲ 38.0
R4.1~3	▲ 35.3	49.0	▲ 46.0	▲ 30.0	▲ 6.7	▲ 47.0
4~6	▲ 27.5	54.9	▲ 49.1	▲ 26.0	▲ 2.2	▲ 34.0
7~9見通し	▲ 7.8	49.0	▲ 40.0	▲ 15.7	▲ 2.3	▲ 28.0

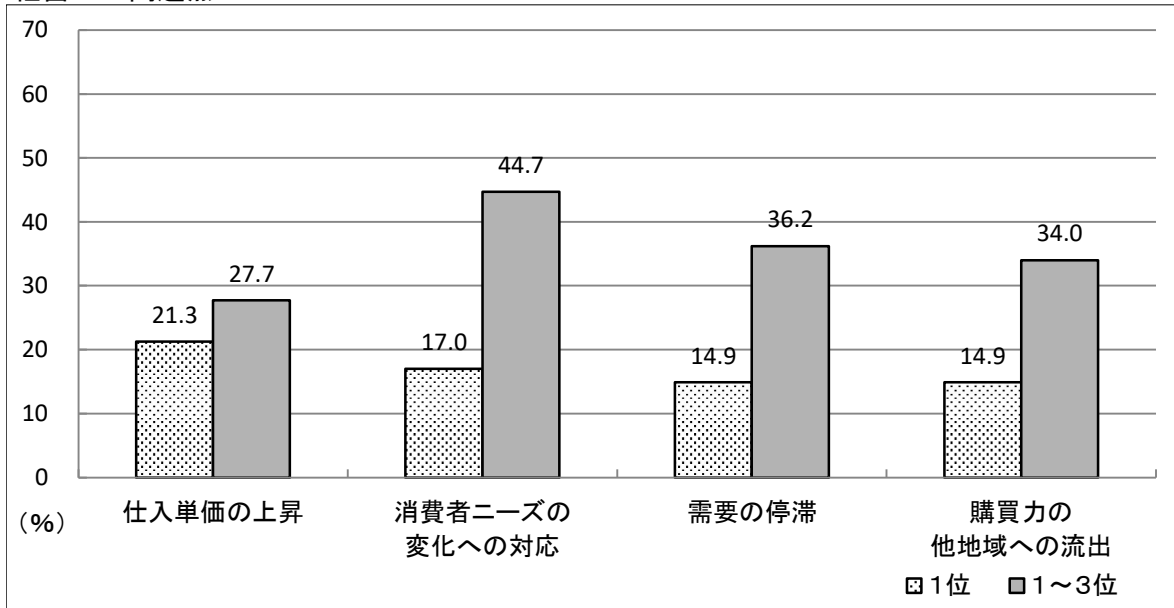
※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。



### 新規設備投資



## 経営上の問題点



## 調査企業の声

- ・ 業況はよくなってきているが仕入れ単価が上昇しており、それを商品単価に反映するかどうか迷っている。
- ・ 以前として前年実績を下回っている。ただ気温の上昇に伴い、客数が少しずつ増えている。夏場に向けて期待している。
- ・ 新学期の需要は例年通りとなったが、昨年と比べると減少している。来期も昨年と変わらないと思うが、少しずつ減少していくと思う。

## 小売業の景況

最近の小売状況をみると、コンビニエンスストア、ホームセンターなどで苦戦するなど、引き続き新型コロナウイルス感染症の影響がみられるものの、ドラッグストア販売で飲食料品を中心に順調に推移しているほか、百貨店・スーパーなども持ち直している。また、近畿経済産業局が公表するR4年5月の県内大型店売上高（百貨店＋スーパー、全店ベース）（速報値）をみると、家具、家電製品は不冴えながら、衣料品や身の回り品等の売れ行きがよいことなどから、前年同月比0.4%増加し、69億8百万円と、11か月連続の増加となった。

こうした中、今回の景況調査では、景況感を示すDI値6項目中4項目で改善傾向を示している。項目別の状況をみると、売上高が前期▲35.3→今期▲27.5、仕入単価（逆指数）が前期49.0→今期54.9、採算が前期▲46.0→今期▲49.1、資金繰りが前期▲30.0→今期▲26.0、従業員数が前期▲6.7→▲2.2、業況が前期▲47.0→今期▲34.0となっている。先行き（R4年7-9月期）については、従業員数を除く5項目で改善予測となっている。

一方、新規設備投資の状況については、今期、計画の16.0%に対し実施は10.0%と低調な推移となった。先行き（R4年7-9月期）については、何らかの投資を計画する企業ウエイトが13.7%となり、僅かではあるが投資マインドの上昇が期待できる。

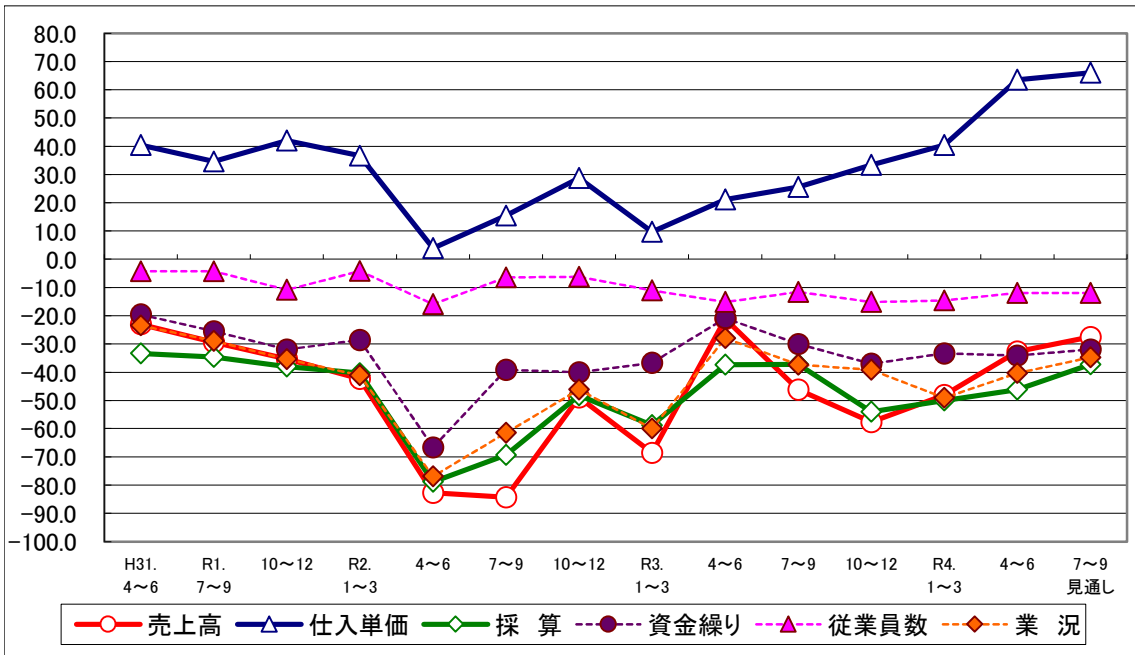
最後に、経営上の問題点については、「仕入単価の上昇」が最も多く、1位に挙げた企業ウエイト21.3%、1位～3位までに挙げた企業27.7%となった。その他の見解としては、「業況はよくなってきているが仕入れ単価が上昇している」、「客数が少しずつ増えている」など、明暗を分ける見解が目立っている。

## サービス業(福井県商工会地域中小企業)の景況

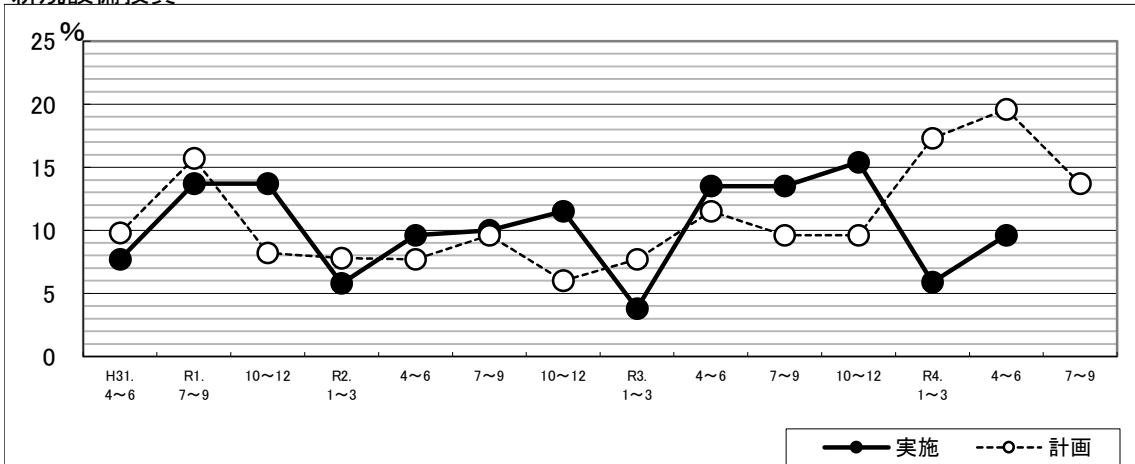
### 景気動向(前年同期比:DI値)

期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
H31.4~6	▲ 23.0	40.4	▲ 33.4	▲ 19.6	▲ 4.3	▲ 23.5
R1.7~9	▲ 29.4	34.6	▲ 34.6	▲ 25.5	▲ 4.3	▲ 28.9
10~12	▲ 35.3	42.0	▲ 38.0	▲ 32.0	▲ 10.9	▲ 35.4
R2.1~3	▲ 42.3	36.6	▲ 40.4	▲ 28.6	▲ 4.2	▲ 41.1
4~6	▲ 82.7	3.9	▲ 78.8	▲ 66.6	▲ 15.9	▲ 76.9
7~9	▲ 84.3	15.4	▲ 69.3	▲ 39.2	▲ 6.4	▲ 61.5
10~12	▲ 49.0	28.8	▲ 48.2	▲ 40.0	▲ 6.2	▲ 46.2
R3.1~3	▲ 68.6	9.7	▲ 58.8	▲ 36.7	▲ 11.1	▲ 60.0
4~6	▲ 21.2	21.1	▲ 37.3	▲ 20.9	▲ 15.2	▲ 28.0
7~9	▲ 46.2	25.5	▲ 37.2	▲ 30.0	▲ 11.6	▲ 37.3
10~12	▲ 57.7	33.4	▲ 54.0	▲ 37.0	▲ 15.2	▲ 39.2
R4.1~3	▲ 48.1	40.4	▲ 50.0	▲ 33.3	▲ 14.6	▲ 49.1
4~6	▲ 32.7	63.5	▲ 46.2	▲ 34.1	▲ 11.9	▲ 40.4
7~9見通し	▲ 27.5	66.0	▲ 37.2	▲ 31.9	▲ 11.9	▲ 34.7

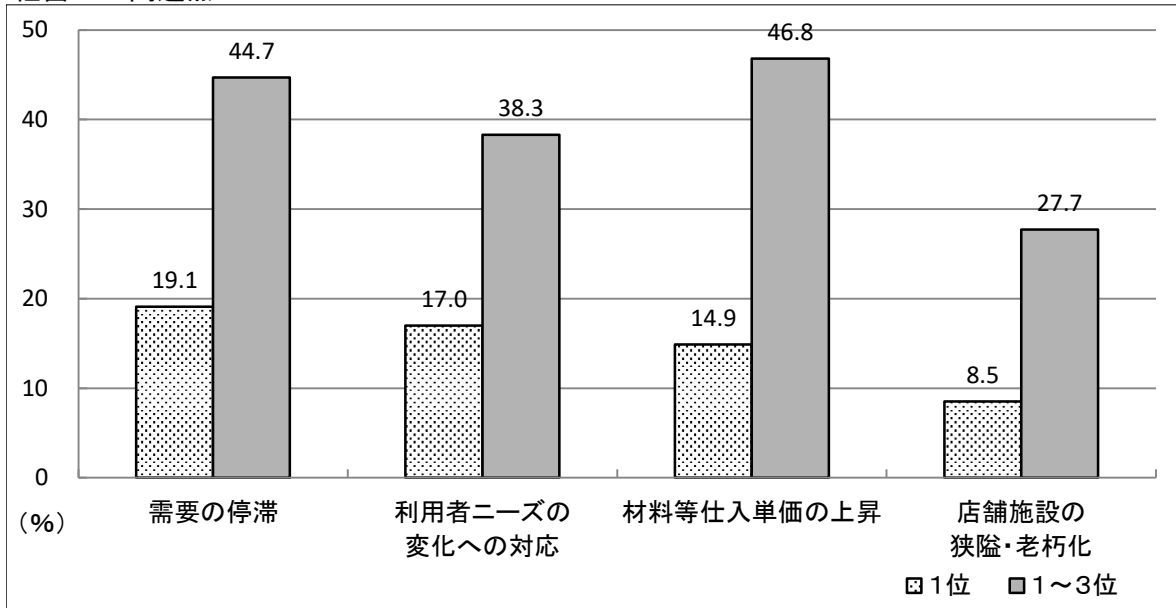
※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。



### 新規設備投資



## 経営上の問題点



## 調査企業の声

- ・ ゴールデンウィーク期待するも前年度より客足も減少、材料も値上がりしており相変わらず厳しい状況だが5月に入っての土曜、日曜日は家族連れスポーツ関係の会食など少しずつ戻って来ている。
- ・ 物価の上昇、所得の低下により消費者の財布のひもが固くなる一方に思える。
- ・ 県割の延長やGOTO再開など期待もあるが、コロナの影響がまだ残っている。コロナ前と後ではお客様の認識の変化が読めない。

## サービス業の景況






経済産業省が毎月公表する「第3次産業活動指数」（R4年5月、季節調整値）をみると、指数値99.7、前月比0.8%上昇と3か月連続のプラス推移となった。2021年12月以降、サービス産業の活動は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響などを受けて低下していたが、今年3月に、まん延防止等重点措置が解除され、新型コロナウイルス感染症拡大の影響が緩和したことなどを受け、4月まで上昇が継続。こうした中、5月は新型コロナウイルス感染症拡大の影響が一段と緩和されたことなどを受け、3か月連続で上昇している。従って、5月時点の基調判断は、「持ち直しの傾向にある」と前月より引き上げられた。























































こうした中、今回の景況調査をみると、DI値6項目中4項目で改善傾向を示している。項目別の指数では、売上が前期▲48.1→今期▲32.7、仕入単価（逆指数）が前期40.4→今期63.5、採算が前期▲50.0→今期▲46.2、資金繰りが前期▲33.3→今期▲34.1、従業員数が前期▲14.6→今期▲11.9、業況が前期▲49.1→今期▲40.4となっている。また、先行き（R4年7-9月期）については、仕入単価を除く5項目が改善或いは横這い予測となっており、県内サービス業ではいまだ水面下ながら、経営環境の幾分の持ち直しが期待される。

一方、新規設備投資については、計画19.6%に対し実施が9.6%となり、低調な投資動向となった。ただ、先行き（R4年7-9月期）については、何らかの投資を考える企業ウエイトが19.6%となっており、投資マインドの上昇が期待される。

最後に、経営上の問題点については、前回同様、「需要の停滞」（1位に挙げた企業ウエイト19.1%、1位～3位までに挙げた企業44.7%）への指摘が最も多かった。また、個別の見解として、「ゴールデンウィーク期待するも前年度より客足も減少、材料も値上がりしており相変わらず厳しい状況」、「物価の上昇、所得の低下により消費者の財布のひもが固くなる一方に思える」など、厳しいコメントが目立っている。

全国・福井景気動向 令和4年4月～6月（対前年同期比：DI値）

DI値	100～15.1	15～0.1	0～-15	-15.1～ -40	-40.1～ -100
天気図					
傾向	好転	やや好転	やや悪化	悪化	大幅に悪化

業種別 / 項目別	売上額	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況	
全国	全体						
	DI値	▲ 11.3	70.1	▲ 33.5	▲ 16.8	▲ 3.3	▲ 22.3
	製造業						
	DI値	▲ 3.2	78.7	▲ 25.6	▲ 12.9	▲ 0.3	▲ 13.2
	建設業						
	DI値	▲ 21.2	81.3	▲ 35.9	▲ 12.6	▲ 4.9	▲ 22.2
	小売業						
	DI値	▲ 20.2	58.0	▲ 40.0	▲ 24.3	▲ 3.6	▲ 35.3
	サービス業						
DI値	▲ 6.0	62.5	▲ 32.2	▲ 15.2	▲ 4.2	▲ 18.3	
福井	全体						
	DI値	▲ 28.5	64.0	▲ 44.5	▲ 22.9	▲ 7.7	▲ 31.9
	製造業						
	DI値	▲ 10.5	75.7	▲ 34.2	▲ 10.6	▲ 5.7	▲ 11.4
	建設業						
	DI値	▲ 16.7	66.6	▲ 47.9	▲ 13.7	▲ 13.6	▲ 39.1
	小売業						
	DI値	▲ 27.5	54.9	▲ 49.1	▲ 26.0	▲ 2.2	▲ 34.0
	サービス業						
DI値	▲ 32.7	63.5	▲ 46.2	▲ 34.1	▲ 11.9	▲ 40.4	

※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。